

早来中学校校舎再建に関して

北海道胆振東部地震によって被害を受けた早来中学校について、現在、町としては老朽化している早来小学校の建替とあわせて小学校・中学校一体型の義務教育学校として設置する方向で検討しています。この件に関する現在の状況を簡単にまとめましたのでご紹介します。

義務教育学校とは

小学校と中学校を1つにした学校です

Q 1 普通の学校と何が違うの？

A 1 ・1つの学校なので校長先生は1人です。
・6年生の次に7年生、8年生、9年生があります。（中1、中2、中3に該当）
・学習範囲は学年に縛られません（小6で方程式、小4で英語も可能）
・学習内容は普通の小中学校と同じです（国で定められています）
・独自の教科をつくることができます
（例：つくばスタイル科、塩浜防災科）

Q 2 義務教育学校で何のメリットがあるの？

A 2 ①中一ギャップの解消
②学習の柔軟なステップアップ
③小学校段階からの教科担任制
④外国語教育やオリジナル科目など特色ある教科の取り組み（義務教育学校特例）
⑤授業時間と休み時間の自由設定（義務教育学校特例）
⑥小学生と中学生の交流
⑦連続性を持った児童／生徒への関わりなどが挙げられています。

Q 3 義務教育学校でデメリットはないの？

A 3 ①小学校卒業の達成感がない
（前期課程6年の時に修了式を実施する学校も）
②リーダーシップを養う機会が減る
（小学校高学年の工夫が必要）
③9年間の人間関係が固定化しやすい
④従来の小学校・中学校との整合性、互換性がないなどが挙げられています。

Q 4 安平小学校、遠浅小学校はどうなるの？

A 4 現段階では安平小学校、遠浅小学校ともに存続します。
町長公約では学校選択制を採用となっています

安平小学校、遠浅小学校について

<学校選択制が導入されなかった場合>

- ・同じ早来地区内で教育環境に大きな差が出る
- ・希望しても新しい学校には入学できない
- ・新しい学校の7年生から編入になる

【安平町および教育委員会の考え】

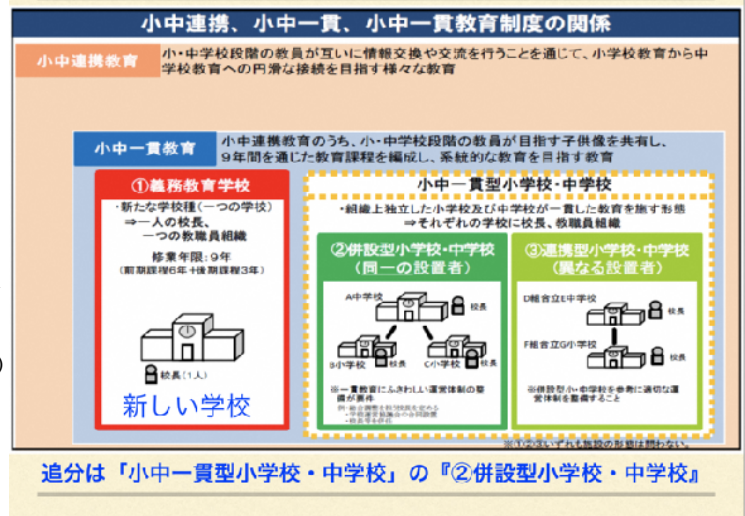
◎在籍保護者および地域の声を尊重する

※現段階では町および教育委員会は統廃合を考えていない

説明会を実施しました

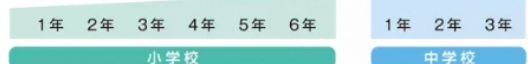
1月9日(水) 教職員、PTA役員、コミスク説明会
1月10日(木) 保護者／住民説明会①（現状報告）
1月16日(水) 新しい学校を考える会①
1月22日(火) 新しい学校を考える会②
1月29日(火) 保護者／住民説明会②（コンセプト提示）
2月4日(月) 遠浅地区説明会
2月5日(火) 安平地区説明会
2月6日(水) 新しい学校を考える会③
2月27日(水) 保護者／住民説明会③

『義務教育学校』って何？

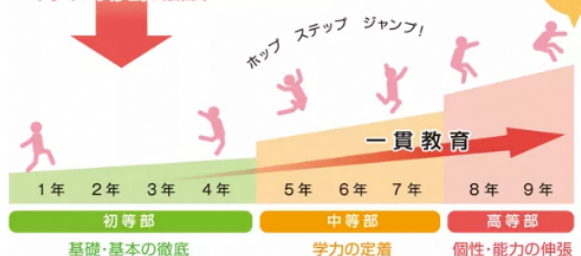


①中1ギャップの解消

②学習の柔軟なステップアップ



<小中システムの融合>



<学校選択制が導入された場合>

- ・新しい学校を希望する児童が多くなると、今よりさらに児童数が減少する
- ・安平小学校、遠浅小学校の施設改修、教育環境整備をどうするか
- ・児童0人になるまで学校を存続するのか

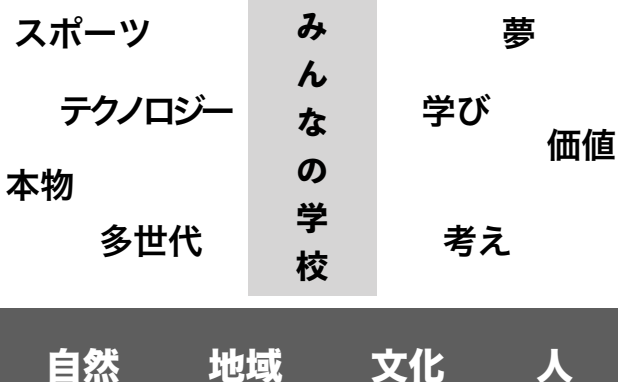
新しい学校のコンセプト（案）

『自分が“世界”と出会う場所』

設定経緯

「新しい学校を考える会」で2回に渡って意見を出しあった。「これからの社会や未来を考えた時、子ども達にどんな経験をさせたいか、そもそも学校とは何なのか、これからの学校とはどんな場なのか」こういったテーマでそれぞれが思いや考えを語り、グループでキーワードを出し合い、図にまとめて教育委員会へ提言。それらをもとに教育委員会にて整理をしコンセプトを設定。

自分が“世界”と出会う場所



安平町の

「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、
支え、支えられる中で、
学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」や
「異年齢、多世代」の人達、
たくさんの「本物」と出会い、
さらに
「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」
「夢」とも出会い、
“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

解説

コンセプトにある「自分」とは子どもだけを指していません。安平町の学校の良さは地域とつながりです。地域の人も学校を通して子ども達を通して多様な考えや価値と出会い、新たな世界と出会うことができます。人は一生学び、一生育つ。子どもも保護者も地域の人達も、みんなにとって出会いが広がり、出会いがつながる学校をつくりたい。「自分が“世界”と出会う場所」というコンセプトには、子どもを中心としながら大人、高齢者まで一人一人が豊かに育ち学ぶ場所（まち）をつくりたいという思いが込められています。

新しい学校を考える会

保護者・地域住民と新しい学校について考える会を設置しています。

趣旨：新しい学校を保護者、地域住民等と一緒に考え、広く意見を交わし、学校づくりに生かす

参加対象：保護者、地域住民（小学生もOK）、趣旨に賛同する方

参加方法：申込み不要、当日会場に来てください。（参加は自由です。毎回参加しなくても良いです）

1月16日(水)・・・コンセプト検討①（学校って何、学校ってどんな場所）

1月22日(火)・・・コンセプト検討②（学校のあり方を図であらわそう）

2月6日(水)・・・コンセプト検討、機能検討（学校にどんな機能があったら良いだろう）

2月20日(水)・・・機能検討（学校の機能を整理しよう-地域の学校）

保護者／住民説明会

新しい学校のコンセプトや機能、現在の取り組み状況を説明します

早来地区	2月27日(水)	18時30分～	町民センター中会議室
安平地区	2月28日(木)	18時30分～	安平公民館
遠浅地区	3月1日(金)	18時30分～	遠浅公民館
追分地区	3月4日(月)	18時30分～	追分公民館

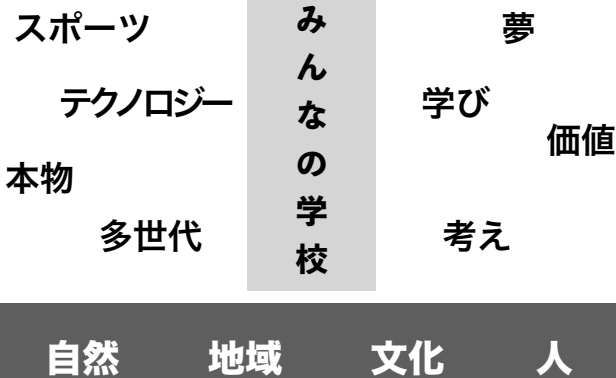
早来中学校校舎再建に関して②

北海道胆振東部地震によって被害を受けた早来中学校について、老朽化している早来小学校の建替とあわせて小学校・中学校一体型の義務教育学校のコンセプトが決まりました。現在、学校の機能について検討を進め、基本計画につなげていきます。

新しい学校のコンセプト

『自分が“世界”と出会う場所』

自分が“世界”と出会う場所



安平町の
「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、
支え、支えられる中で、
学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」や
「異年齢、多世代」の人達、
たくさんの「本物」と出会い、
さらに
「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」
「夢」とも出会い、
“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

解説

コンセプトにある「自分」とは子どもだけを指していません。また「世界」とは海外を指しているわけでもありません。安平町の学校の良さは地域とのつながりです。子どもだけでなく地域の人も学校を通して多様な考えや価値と出会い、新たな世界（世界観）と出会うことができる。人は一生学び、一生育つ。子どもも保護者も地域の人達も、みんなにとって出会いが広がり、出会いがつながる学校をつくりたい。「自分が“世界”と出会う場所」というコンセプトには、子どもを中心としながら大人、高齢者まで一人一人が豊かに育ち学ぶ場所（マチ）をつくりたいという思いが込められています。

新しい学校を考える会

保護者・地域住民と新しい学校について考える会を設置しています。

趣旨：新しい学校を保護者、地域住民等と一緒に考え、広く意見を交わし、学校づくりに生かす

参加対象：保護者、地域住民（小学生もOK）、趣旨に賛同する方

参加方法：申込み不要、当日会場に来てください。（参加は自由です。毎回参加しなくても良いです）

時間場所：18時30分～、町民センター 中会議室

3月 8日(金)・・・防災機能の検討（どんな空間、備品、機能が必要か）

3月19日(火)・・・学校機能の整理（学校に何をつける、何はつけない一例）図書館、公民館、ホールなど）

保護者／住民説明会

新しい学校の機能、現在の取り組み状況を説明します

早来地区 3月26日(火) 18時30分～ 町民センター中会議室

新しい学校の機能（案）

設定経緯

『みんなの学校』

新しい学校を考える会にて「自分が“世界”と出会う場所 ～みんなの学校～」というコンセプトにあった学校には、どんな機能（空間、場所、使い途など）があったら良いか検討しました。

早来地区の社会教育機能（課題）

- ・図書館のスペース不足
- ・郷土資料館（地震による被災）
- ・スポーツができる体育館
- ・音響設備の整ったホール
- ・園児増による子ども園のスペース不足（定員超過）
- ・利用者増による学童/児童館のスペース不足（定員超過）
- ・町民センター耐震基準課題
- ・避難所機能を持った防災拠点

※学校機能として学校特別教室の不足、余裕教室の不足、ICT教育環境の整備などが挙げられる

【健康・スポーツ】

- ・体育館（アリーナ）
- ・保健センター
- ・学食 ・高齢者の運動

【文化】

- ・音響設備（ホール）
- ・図書館 ・Café
- ・博物館 ・農耕/馬
- ・和室 ・調理スタジオ

【事業施設】

- ・公民館
- ・社会福祉協議会
- ・こども園（5歳児）
- ・学童/児童館

【学校（施設充実）】

- ・快適な学習環境
- ・余裕のある教室数
- ・広さ可変な教室
- ・大画面教室 ・専門教室
- ・ICT環境

お店体験（チャレンジショップ）

防災拠点（宿泊）

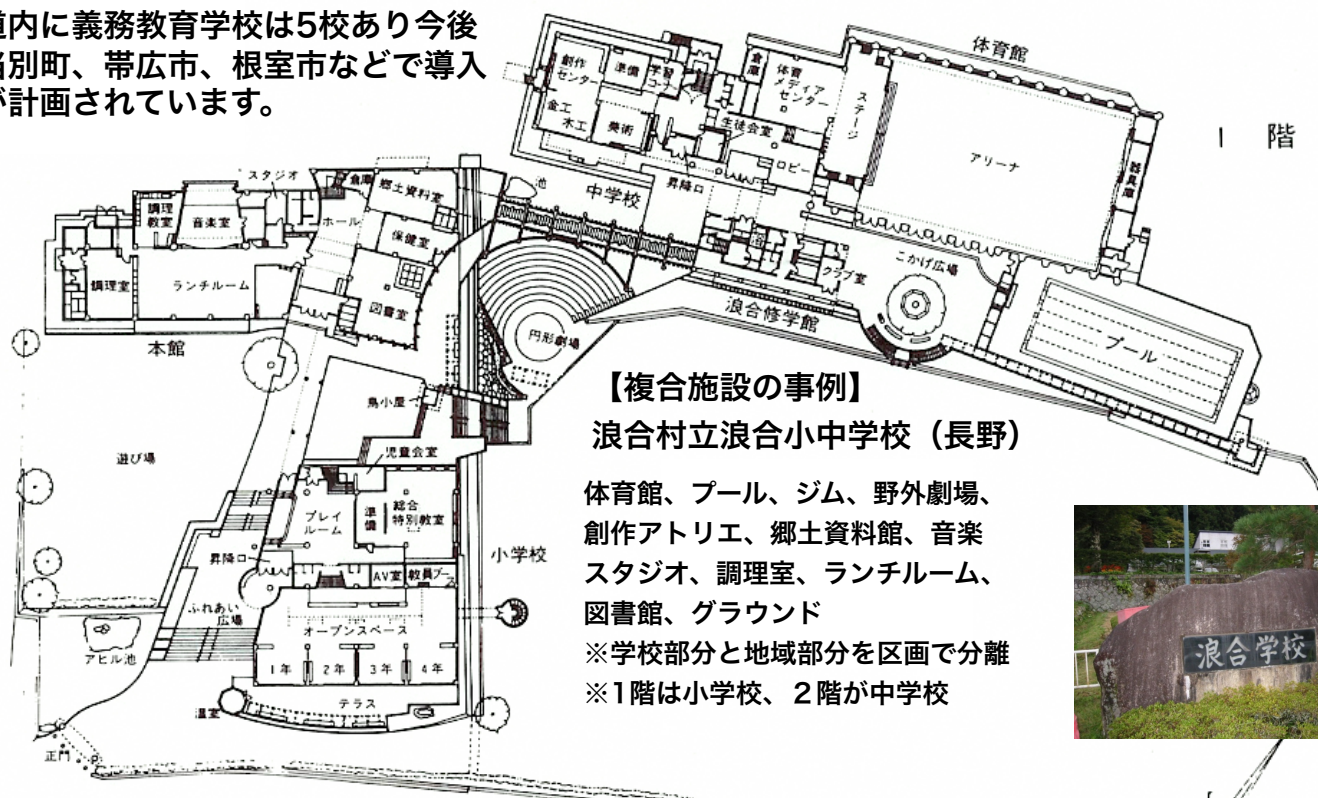
解説

上記の機能をすべて入れるわけではありません。実際には予算や空間配置、学校としての使い勝手などと照らし合わせ整理していくことになります。しかし、今回、学校を建て替えた場合、その校舎は50年近く使用すると考えられます。そう考えるとこれからの社会やまちづくりのことも含めて総合的かつ長期的視野に立ち、学校教育/社会教育施設を検討していきたいと思います。

※具体的な機能整理は3月19日(火)の「新しい学校を考える会」で検討整理していきます。

・現在、全国では1万校以上の学校が複合施設として設置されています。（平成26年度文部科学省調査10,567校）

・道内に義務教育学校は5校あり今後当別町、帯広市、根室市などで導入が計画されています。



早来中学校校舎再建に関して③

北海道胆振東部地震によって被害を受けた早来中学校について、老朽化している早来小学校の建替とあわせて建設する予定の小学校・中学校一体型の学校についてコンセプトと計画目標が決まりました。この目標をもとに基本計画を作成していきます。

これまでの経緯

説明会延べ 14回
ワークショップ 6回
住民周知（広報）3回

震災後から安平町では早来中学校校舎再建についてあらゆる観点から検討し（場所、予算、工期、教育、国の動向）一定程度の方向性が見えた1月より議員、教職員、PTA、コミスク、保護者、住民に対して説明会を開催しました。説明内容は決定事項の報告ではなく現状と方向性です。その後、保護者や住民が自由に参加できる「新しい学校を考える会」を設置し、コンセプトや学校機能について広く意見を聞きながら作成にあたってきました。また、議論の過程では、そのつど説明会を実施し、町民には広報あびらへの折込等で周知してきました。

決定事項の報告説明で事を進めるのではなく、決まる前に保護者/住民の声を聞き、一緒に進めていきたいという考えからです。まだ計画目標の段階です。未来に向けた新しい学校づくり、ぜひ一緒に安平町の未来をつくっていきましょう

1月9日(水)～4月5日(金)

1月9日(水) 議員説明会①、教職員説明会②、PTA役員/コミスク説明会③
1月10日(木) 保護者/住民説明会④⑤（現状報告）
1月16日(水) 新しい学校を考える会（コンセプト検討）
1月22日(火) 新しい学校を考える会（コンセプト整理）
1月29日(火) 保護者/住民説明会⑥（コンセプト提示）
2月4日(月) 遠浅地区説明会⑦
2月5日(火) 安平地区説明会⑧
2月6日(水) 新しい学校を考える会（学校機能検討）
2月20日(水) 新しい学校を考える会（全国事例参考）
2月27日(水) 保護者/住民説明会⑨（学校機能提示）
2月28日(木) 安平地区説明会⑩
3月1日(金) 遠浅地区説明会⑪
3月4日(月) 追分地区説明会⑫
3月8日(金) 新しい学校を考える会（防災機能検討）
3月19日(火) 新しい学校を考える会（学校機能整理）
3月26日(火) 保護者/住民説明会⑬（計画目標提示）
4月1日(月) 議員説明会⑭（全員協議会）
※広報あびら折込 3回（毎月）
※保護者/教職員アンケート実施

保護者/住民説明会

4月22日(月)18時30分～ 町民センター

内容：これまでの経緯、計画目標、現在の状況等

新しい学校のコンセプト

『自分が“世界”と出会う場所』

自分が“世界”と出会う場所

スポーツ	みんなの学校	夢	
テクノロジー		学び	
本物		価値	
多世代		考え	
自然	地域	文化	人

安平町の

「自然」「地域」「文化」「人」に触れ、
支え、支えられる中で、
学校を通して「スポーツ」「テクノロジー」や
「異年齢、多世代」の人達、
たくさんの「本物」と出会い、
さらに
「色々な考え」「多様な価値観」「多くの学び」
「夢」とも出会い、
“世界”に生き、“世界”へと羽ばたいていく

解説

コンセプトにある「自分」とは子どもだけを指していません。また「世界」とは海外を指しているわけでもありません。安平町の学校の良さは地域とのつながりです。子どもだけでなく地域の人も学校を通して多様な考えや価値と出会い、新たな世界（世界観）と出会うことができます。人は一生学び、一生育つ。子どもも保護者も地域の人達も、みんなにとって出会いが広がり、出会いがつながる学校をつくりたい。「自分が“世界”と出会う場所」というコンセプトには、子どもを中心としながら大人、高齢者まで一人一人が豊かに育ち学ぶ場所（マチ）をつくりたいという思いが込められています。

計画目標

『自分が“世界”と出会う場所 ～みんなの学校を目指して～』

1. 多様性の中で豊かな社会性を育てる環境づくり

- ・郷土の文化・自然・人がつくりあげる多様な社会と出会うことができる
- ・地域住民・異学年・学校間・他国の子ども達と交流・対話・共同学習ができる

2. 学ぶ意欲を喚起し、創造力を高める環境づくり

- ・教科の魅力を生かせる、魅力的な教材・ICT・IoTを継続的に享受できる
- ・本物と出会い、学びが実社会とつながり『世界』と出会うことができる

3. 子どもが主役の学びの環境づくり

- ・一人ひとりの個性に応じた学びの場、ともに高め合い、認め合える学びの場
- ・子どもが地域の一員、地域の主役として、町民とともに学び会える場

4. 9年間（15年間）の確かな成長を支える環境づくり

- ・成長段階に応じた学習環境、成長が実感できる生活環境
- ・学びの過程や履歴を踏まえ、ICT・IoTを活用した個と集団の学習支援

5. 心地の良い、快適に過ごせる学校づくり

- ・温かみのある校舎（木質化）、落ち着けるスケール感、郷土の文化・自然を感じ、安心して過ごせる環境
- ・多様な居場所がある・居場所が見つかる・地域住民や保護者の居場所・交流場所がある

6. まちのコミュニティセンターとなる学校づくり-学社融合

- ・地域も使える（共用化）施設計画・拠点・管理運営体制・システムづくり
- ・地域の安全をみんなで支える防災拠点、避難所として機能する環境づくり

7. 「チーム学校・チーム安平」- 地域の子どもは地域で育てる

- ・先生同士、保護者・地域住民・ボランティアと学校の連携・協働を支援する環境づくり
- ・教育と福祉がつながる環境づくり

8. 安平町の未来を拓く学校づくり

- ・次世代技術（AI・インターネット・自動運転）による新しい学びと学校運営
- ・地域から永く愛され、持続可能で長寿命な学び舎・維持管理の仕組み
- ・教育環境や社会環境の変化に対応できる施設

新しい学校の機能（案）

※下記の機能は案の一部、一例であり決定ではありません。
※4月25日(木)の考える会で具体的に機能と配置を話し合います。
関心のある方はぜひご参加ください。（参加自由、任意）



新しい学校を考える会

4月25日(木)18時30分～ 早来町民センター 中会議室

早来中学校校舎再建に関して④

早来中学校の再建は令和4年以降になります

学校の再建方法について「住民議論が不足している」という指摘を受けたため、あらためて中学校再建に関して町民参画推進条例に則り、手順を踏みながら進めていきます。
当初住民および保護者の方にお示しした予定（令和3年12月開校）より1年遅れる（令和4年12月開校）ことになります。
これにより現在の中学1年生は（令和4年3月卒業）、3年間仮設校舎で過ごすことになります。また、仮設校舎の使用期間（当初2年）を延長することになります。

<最短（当初）スケジュール> ※



<実施スケジュール>



<Q&A>

Q 町民参画推進条例って何？

A ワークショップや審議会等、町民説明会などを開き、町民参画の上で町と協働のまちづくりを進めることを定めた条例です。

Q 今までのワークショップや説明会ではダメなの？

A 条例に則った住民周知や報告、また審議会等の未設置など条例に則る進め方が必要であれば、不足していました。

Q なぜ、1年も遅れるの？

A 国への申請は年1回6月しかありません。今年の6月に申請しなければ、来年6月まで申請する機会がないのです。

Q これ以上、遅れることはないの？

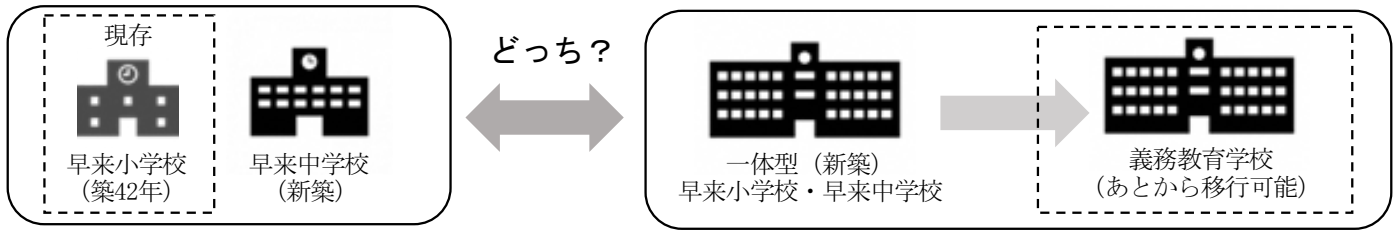
A 現段階では約束できません。再建に関する議論が難航したり、建設予算、建設工期などにより、1年以上遅れる可能性はあります。教育委員会としては少しでも早く再建できるよう取り組んでいきます。

Q 仮設校舎はどうなるの？

A 使用期限は2年ですので延長の申請をします。（使用料500万/年）また延長使用にともない教育環境改善（校舎内温度、体育館や特別教室がない、部活交通支援等）について検討していきます。

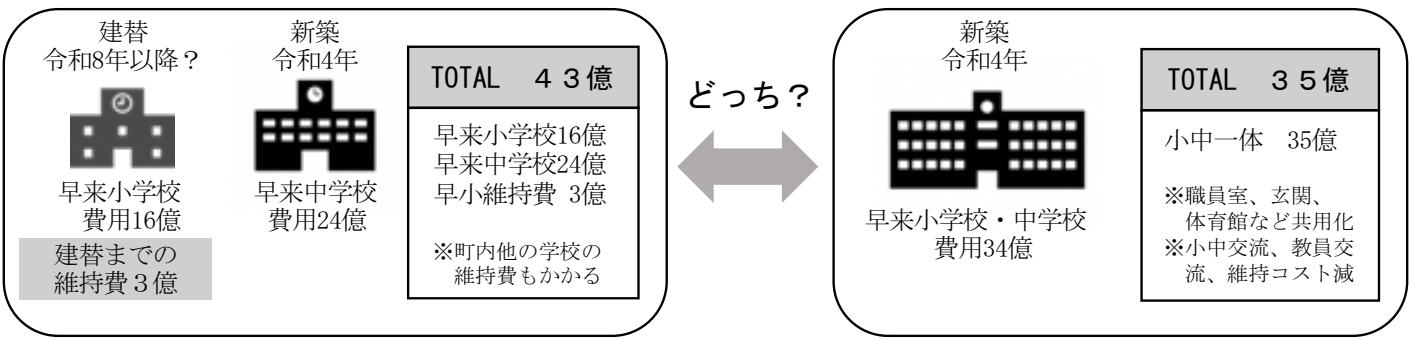
『義務教育学校』の議論は仕切り直します

- ・義務教育学校への移行については、町民参画推進条例に則り、保護者、住民、児童生徒等の意見を聞き、議論をします。『検討委員会を設置⇒合同学校運営協議会（子ども園、早来小、早来中）』
 - ・一番の課題は、**「義務教育学校にするか」ではなく「早来中学校の再建」**です。
- つまり、「中学校のみ建てるのか」「老朽化する小学校もあわせて建て替えるのか」です。



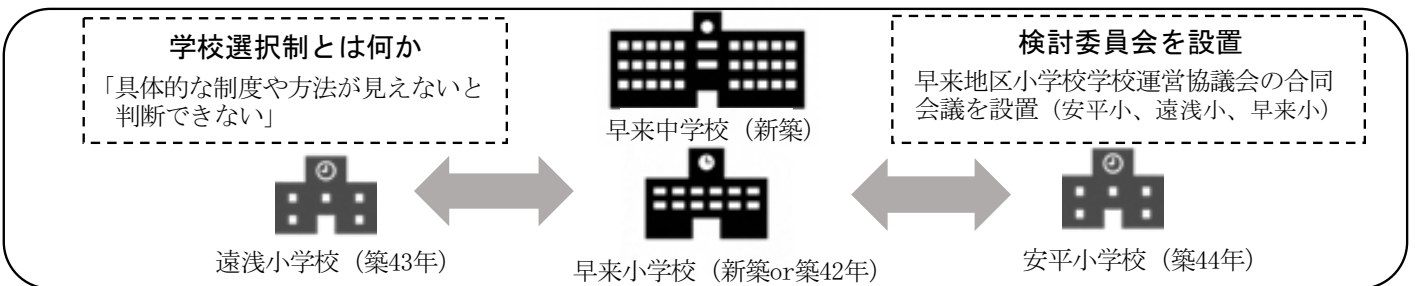
校舎一体型の小学校・中学校を視野に入れて議論します

- ・教育環境の充実、長期的建設コスト負担等など総合的に考え、校舎一体型の小学校・中学校（小中一貫）を視野に議論を進めます。



『学校選択制』の議論は中学校再建と分けて進めます。

- ・説明会を通して安平地区、遠浅地区の両地区において**「学校選択制」を希望している保護者がいる**ことがわかりました。
- ・町民参画推進条例に則り、住民、保護者、児童生徒の声を聞き、選択制の導入及び制度について検討を進めていきます。



安平小学校 18名	早来小学校 151名	遠浅小学校 43名	複式学級、職員配置について
1年生 4名	1年生 23名	1年生 8名	2個学年で16名以下→複式学級 ※1,2年生、3,4年生、5,6年生など 児童14名以下→事務職員未配置 児童10名以下→養護教諭未配置
2年生 1名	2年生 18名	2年生 7名	
3年生 3名	3年生 24名	3年生 4名	
4年生 5名	4年生 29名	4年生 11名	
5年生 3名	5年生 23名	5年生 8名	
6年生 2名	6年生 31名	6年生 7名	

学校選択制が導入され**地域の学校に在学する児童が10名程度**となる見込の場合、教育委員会として何らかの判断をします。